

北総モラルアップ通信

信頼に応える教職員～光り輝く子供たちの未来のために～



令和8年度がスタートして、早くも3ヶ月が経とうとしています。新しくお迎えした先生方もすっかり職場に馴染み、それぞれの場所で生き生きと輝きを放たれていることでしょう。学校全体が新しい風を心地よく取り入れ、光り輝く子供たちの未来に向かって、ワンチームで力強く進まれている様子が目に浮かびます。

北総教育事務所も、教職員の皆さんが安心して100%の力を発揮できるよう、全力で伴走します！個人でも組織でも「不祥事を起こさない・起こさせない」クリーンで風通しのよい環境づくりを進めるとともに、その一環として、職場の活力を高める『モラルアップ通信』を発行していきます。

第1号のテーマ 「不祥事根絶」～こんなとき、どうしますか？～

1. SNS 編

SNS を通じて、あなたの個人アカウントに生徒からメッセージが届きました。
「先生、夜遅くにすみません。先生のアカウントを見つけて送ってしまいました。最近、家にも学校にも自分の居場所がない気がして、すごく息苦しいです。誰にも言えなくて……。先生だけが頼りなんです。話を聞いてもらえませんか？」

みなさんだったらどうしますか？

A 時間外だし
無視をしよう

B 心配だから
返信しよう



C 返信はせず
に、次の日学校
で相談に乗ろう

2. 交通事故編

自家用車で通勤中に車と何かが接触したような音がしました。バックミラーを確認しましたが、特に何も異常はありませんでした。

みなさんだったらどうしますか？

A 車を止め
て、確認してみ
よう



B 飛び石か何
かな。後で車
を見てみよう

※裏面に解説を掲載しています。ぜひ、ご自身ならどうするかを一度考えてからご覧ください。

1. SNS 編（解説）

C が正解

児童生徒の切実な悩みに「相談に乗ってあげたい」という気持ちは、責任感や使命感の強い先生方ほど強くお持ちかもしれません。しかし、閉鎖的な空間である私的な SNS でのやり取りには、結果的に教職員・児童生徒双方を傷つけるリスクをはらんでいます。

- ① **心理的境界線の崩壊** 初めは親身な相談対応のつもりであっても、児童生徒が先生を「特別な存在」と認識することで、次第にプライベートなやりとりへと発展してしまう可能性があります。
- ② **個人で抱え込むリスク** 深刻な悩み（家庭環境、いじめ、メンタルヘルスなど）であるほど、教員が一人で抱え込んで解決しようとするのは危険です。一人に対応できることには限界があり、抱えきれなくなるケースも少なくありません。

学校組織としてチームで対応することこそが、結果としてその児童・生徒を確実に救うことにつながります。児童生徒のことを想うからこそ、まずは返信はせずに**管理職や学年主任などへ相談・報告**をしましょう。

また、事前に学校として「SNS での個別対応はできない」という方針を児童生徒と保護者へ周知しておくことも重要です。

2. 交通事故編（解説）

A が正解

「大きな音でもなかったし、大丈夫だろう」という思い込みは絶対に禁物です。自転車の前輪に接触して相手が転倒しているかもしれませんし、小さな子どもを巻き込んでしまい、バックミラーに映っていないだけかもしれません。

- ① **命に関わる危険性** ぶつかった弾みで転倒し、頭を強く打っている可能性があります。一刻も早く状態を確認し、すぐに救急車を要請しなければならない事態かもしれません。
- ② **一度でも現場を離れたら「ひき逃げ」に** 相手が自転車や歩行者で、転倒して怪我をしていた場合、その場を立ち去った時点で「ひき逃げ（救護義務違反）」が成立します。後から心配になって現場に戻ったとしても、ひき逃げとみなされるのが現実です。

「何かにぶつかったかもしれない」と思ったら、すぐに安全な場所に車を止め、確認をしましょう。車を降りて確認する「1 分間の勇気」が、被害者の命を救い、そしてあなた自身の教職人生と大切な家族を守ることになります。

★他にも、「このようなとき、どうしますか？」という事例を 2 つ紹介します。ぜひ、ご自身で考えてみたり、同僚の皆さんと話し合ったりしてみてください。

【1】 修学旅行のために集めた健康調査票が見当たりません。昼休みに職員室の机の上に置いたところまでは覚えているのですが、どうしますか？

【2】 隣のクラスの学年主任が、授業中にある児童に対して強い口調で叱責しているのを見かけました。どうしますか？

令和8年度臨時的任用職員に
対する不祥事根絶研修会の資
料です。こちらも是非ご覧だ
さい。



北総モラルアップ通信への
ご意見・ご感想や事例に対する
皆様の回答をご入力いただ
けると嬉しいです！

